

福井市学校版環境ISO 実施計画書

福井市長 様

私たちの学校は、恵み豊かな環境を守り未来に引き継いでいくために、環境保全に関する学習、教育及び活動を積極的に行って環境にやさしい学校づくりと生命や自然の大切さを理解し郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成に取り組むための実施計画を作成しましたので、福井市学校版環境ISO認定制度による認定の更新を申し込みます。

令和 5年 4月 24日

学校名 安居小学校

校長氏名 斎藤 瑞恵

1 今年度の目標(学校の約束)

- ①安居地区の環境、地球環境について学習します。
- ②学校全体で、水や電気などの資源やエネルギーを大切に使い、環境にやさしい学校づくりに取り組みます。
- ③地域と連携しながら、ゴミの分別、リユースやリサイクルに努めます。

2 取組内容

①環境学習・環境教育

- ・安居地区の自然環境について学習します。
- ・社会科の学習の中で、ゴミ処理が抱える問題や水資源の有限性を学習します。
- ・環境委員会を中心に、学校全体にゴミ拾いについて呼びかけたり、花壇の世話をしたりするなどの学校の環境整備に取り組みます。

②省エネルギー・省資源の取組

- ・環境委員会で、掲示物や放送を用いて、節水・節電を呼びかけます。
- ・掃除用具の点検を毎月行い、大切に使うように呼びかけます。

③ゴミの分別・リユース、リサイクルの取組

- ・地域のゴミ分別ルールに従って分別します。
- ・PTAや地域と連携し、アルミ缶や古紙の回収を実施します。
- ・文書や会議資料は、可能な限り裏紙を活用して印刷するようにします。

★ ESDポイント(取組内容の内、1項目についてESDの視点をどのように取り入れるかを記載してください。)

- ①環境学習や環境教育では、安居地区の地域の方や自然と接しながら、自分の住んでいる地域の環境について関心をもち、大切にしようとする態度を身につける。
(つながりを尊重する態度)

福井市学校版環境ISO 実施報告書

<p>学校名</p> <h1 style="text-align: center;">安居小学校</h1>	
<p>1 今年度の目標（学校の約束）</p> <p>① 安居地区の環境、地球環境について学習します。</p> <p>② 学校全体で、水や電気などの資源やエネルギーを大切に使い、環境にやさしい学校づくりに取り組みます。</p> <p>③ 地域と連携しながら、ゴミの分別、リユースやリサイクルに努めます。</p>	
<p>2 取組内容</p> <p>① 環境学習・環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の中で、3年生が安居地区の自然を写真に撮り、市のコンテストに応募した。また、ホテルの観察を行い、調べたことをまとめ、公民館で発表を行った。 ・1年生の生活ではチューリップの球根植え付け、4年生の理科では、ヘチマの種まき・水やり・収穫など各学年で植物の世話や収穫に取り組んだ。 ・環境委員会の活動で、グラウンドに向かう階段の清掃を行った。 <p>② 省エネルギー・省資源の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生家庭科の「すずしく快適に過ごす住まい方」の単元で、環境への影響を踏まえた暑い日を快適に過ごすための工夫について考えた。 ・環境委員会の児童が全校放送で、節水や水の大切さについて伝える放送を行った。また、集会で環境を守るためのクイズを出し、全校生徒で環境を守るための学習に取り組んだ。 <p>③ ゴミの分別・リユース、リサイクルの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生が社会の授業の中でゴミの分別と処理、3Rについて学び、ゴミを減らす工夫を考える活動を行った。 ・地域のごみの分別ルールに従って、分別を行った。 ・各教室に燃えるごみ、燃えないごみ用のごみ箱を設置して、分別に取り組んだ。 ・毎週末に各教室や清掃場所のごみを燃えるごみと燃えないごみに分別して回収を行った。 ・アルミ缶や古紙の回収をPTAや地域と連携して実施した。 ・折れたり破れたりして使用できない紙を回収し、廃品回収に出した。 	  

★ ESDポイント（取組内容の内、1項目についてESDの視点を取り入れたポイントを記載して下さい。）

③について、学校全体で、ごみの分別や不要になった紙等を再利用する意識が少しずつ育ち、限りある資源を有効活用しなければならないことを理解できた。

（多面的、有限性、公平性）

3
見直し

【具体的効果】

- ①各学年で様々な植物の植付け・観察を行ったことで、学校の周りの自然や環境について意識を向けることができるようになった。また、ホタルの観察や町探検を行うことで、地域の自然や生き物についても目を向けることができるようになってきた。
- ②環境委員会の児童が節水について全校に呼びかけを行ったことで、手を洗う際に泡を流すとき以外は水を止める意識をもった児童が増えた。
- ③燃える、燃えない、資源ごみなど、ごみの種類に応じて、分別しようとする意識が育ってきている。

【改善点】

- ・学校の周りの豊かな自然をより有効に活用し、学習や学校行事等に取り入れていく。生活科や理科などの学習を通し、地域の自然に触れ、地域や自然を大切にしようとする心を育てられると良い。
- ・社会科などの授業を通して、水資源やエネルギー資源などに関する環境問題について調べ、環境委員会を始めとする委員会活動で、校内でできる具体的な取り組みを考え、実践していく。